

土木学会 見える化データ 2019

掲載データ一覧

土木学会は、2014年に創立100周年を迎えた公益社団法人です。学会個人会員数は約38,000人、その多くは企業に所属する土木技術者です。土木学会には、50以上の委員会が設置され、多くの学会員が参加し活発に活動しています。

ここでは、土木学会の2018年度の活動のうち、社会支援、社会とのコミュニケーション、社会への直接的貢献を目的とした活動などを抜粋して紹介します。多くの皆様にご覧いただき、開かれた学会として、より良い方向へ発展し続けていきたいと考えています。

2019年6月13日



公益社団法人 土木学会

企画委員会

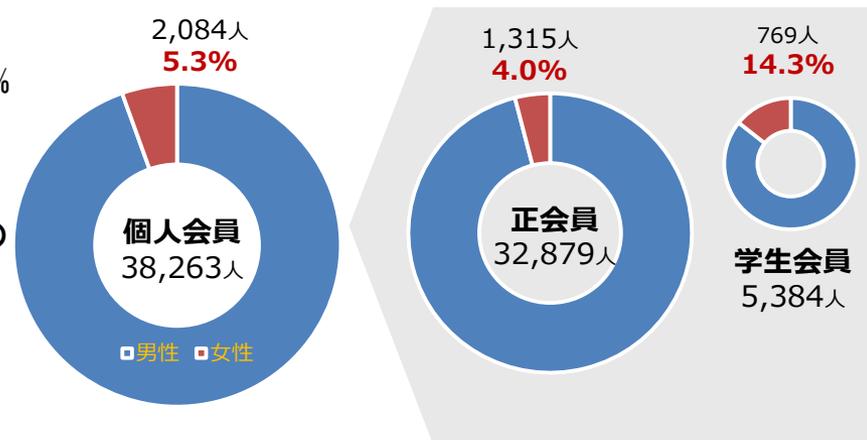
<http://committees.jsce.or.jp/kikaku/mieruka2019>

●会員構成 -----	2
性別会員数、年齢構成	
●広報 -----	3
記事掲載数、記者発表数	
●国際交流 -----	4
国際ジョイントセミナーの開催と派遣	
●国際交流 -----	5
CECAR8	
●トークサロン -----	6
テーマ等	
●社会インフラ健康診断 -----	7
健康診断書(試行版)の公表	
●イブニングシアター -----	8
イブニングシアター参加者数	
●災害調査団 -----	9
派遣実績	
●教育企画・人材育成 -----	10
学習支援、D&I推進支援	
●支部活動 -----	11
各支部の活動	
●委員会活動 -----	13
出版、調査研究	
●技術者の継続教育 -----	18
土木技術者資格、CPD、土木学会提供JMOOC講座	

会員構成

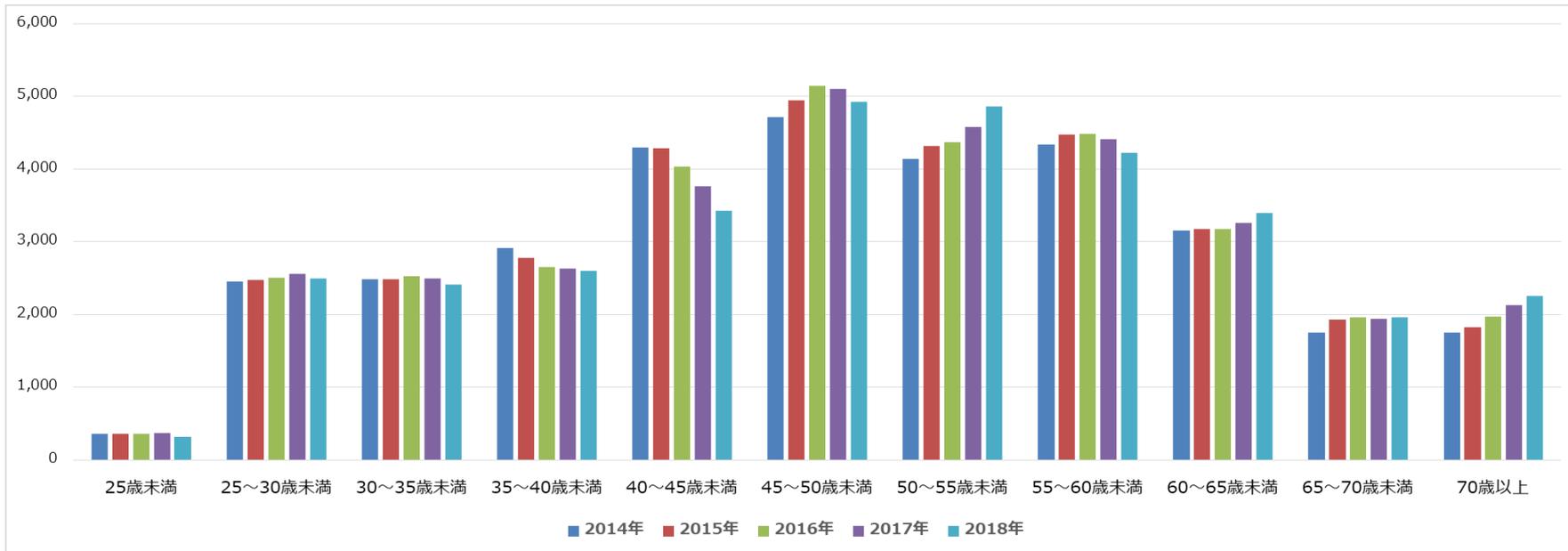
- 土木学会には38,263人の個人会員が所属しています。会員のうち5.3%が女性で、その割合は正会員では4.0%ですが、学生会員では14.3%にのびります。
- 年齢別正会員数の割合は、若手会員、シニア会員の割合が低くなっています。

個人会員の数と性別の構成



2019年3月31日現在の数値。

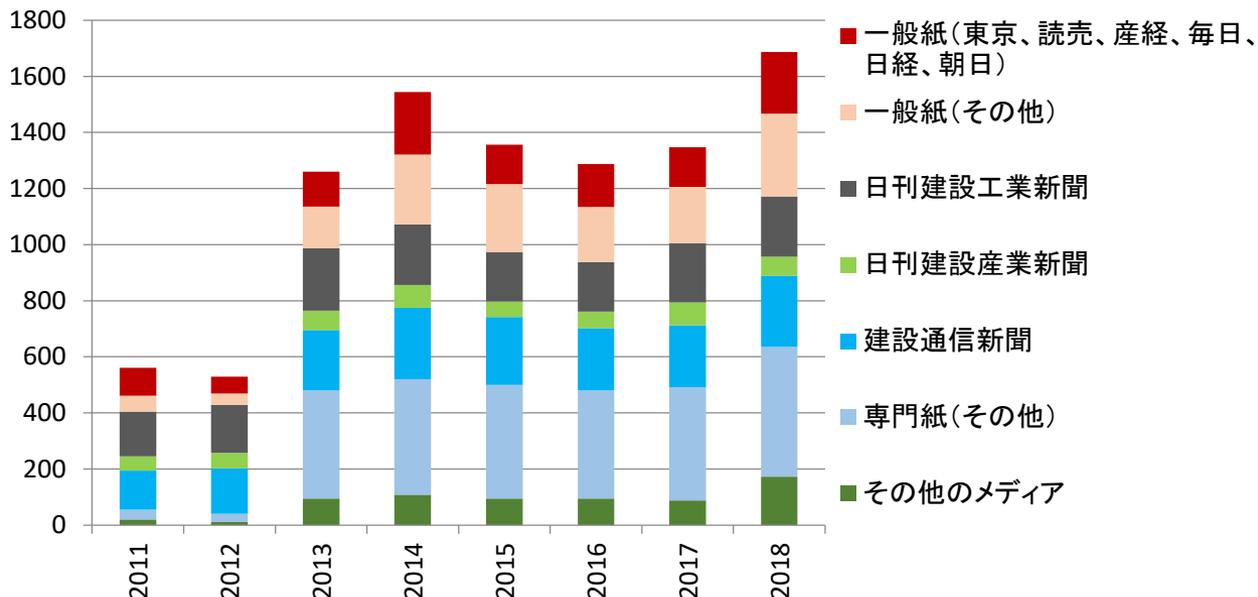
年齢別正会員数の推移



各年3月31日現在の数値。

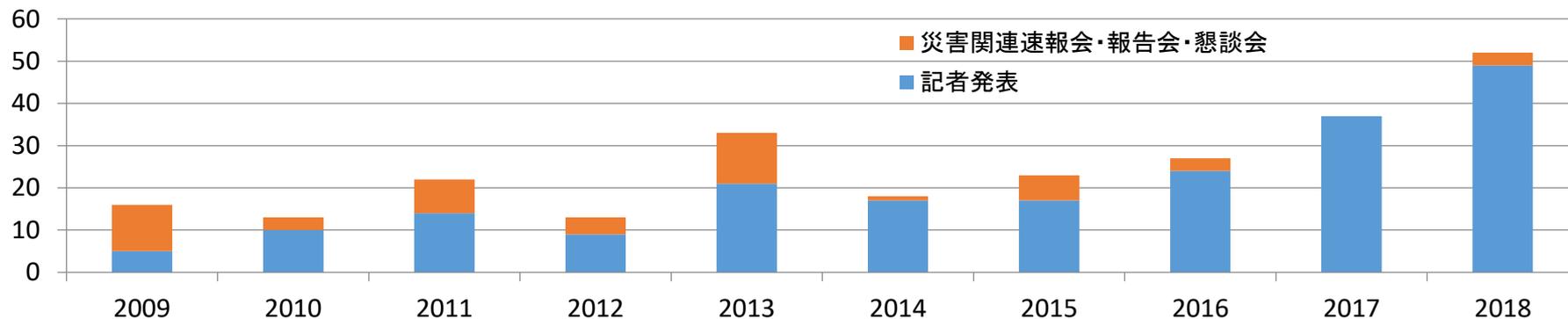
- 2018年度は1,600件を超える記事が掲載されました。過半数は、業界紙などの一般紙以外のメディアでした。
- 土木学会では年間49回の記者発表を開催しました。

記事掲載数



注) 100周年関連事業イベントが始まった2013年1月頃から、積極的な広報により学会活動が認知され、各メディアに取り上げられる頻度が高くなりました。

記者発表数



注) 災害関連速報会・報告会・懇談会：災害関連の速報会・報告会・懇談会
記者発表：土木学会賞、会長就任インタビュー、報道機関懇談会、「土木の日」会長インタビュー等

土木広報センター
<http://committees.jsce.or.jp/cprcenter/>

社会コミュニケーション委員会
<http://committees.jsce.or.jp/publicity/>

国際交流

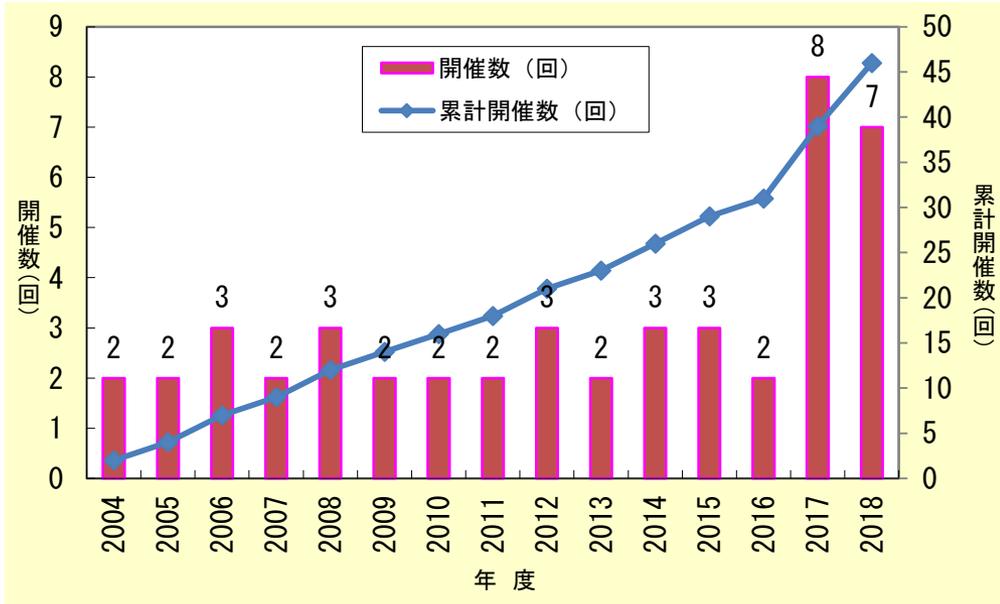
- 土木学会では、毎年、国際ジョイントセミナーを開催しています。
- このうち「公益信託土木学会学術交流基金」の助成を受けて実施されたものの記録をご紹介します。
- 2018年度には7回の国際ジョイントセミナーを開催し、81人を海外に派遣しました。派遣先は中国(本土、台湾)、インドネシア、ニュージーランド、ベトナム、タイ、ミャンマーです。

●2018 International Workshop for Young Civil Engineers

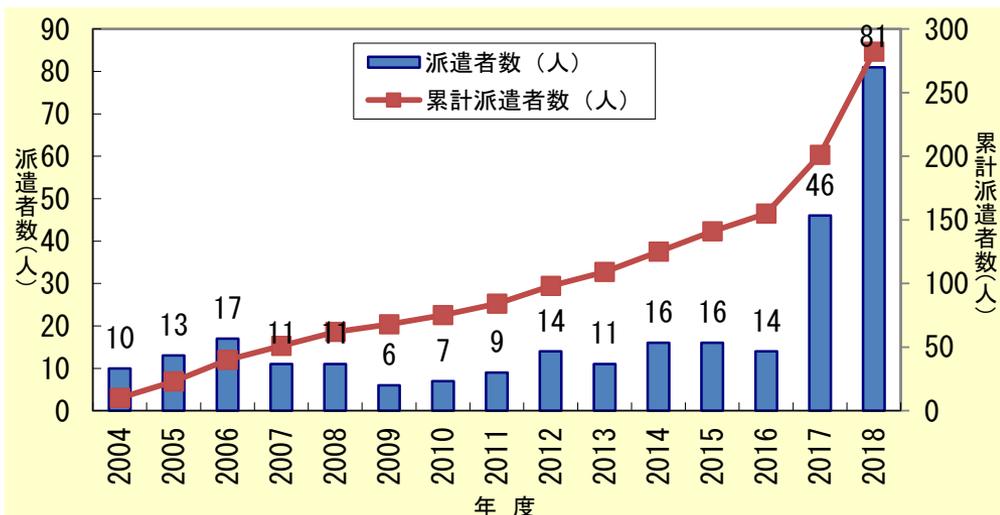


国際センター
<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/>

国際ジョイントセミナー開催数



国際ジョイントセミナー派遣者数



- アジア土木学協会連合協議会(略称ACECC)の主催による第8回アジア土木技術国際会議(略称CECAR8)が2019年4月16日から19日に東京のホテルメトロポリタンで開催され、アジア太平洋地域以外も含めた34の国や地域から700名が参加しました。
- 「ACECC東京宣言2019」が確定・署名され、閉会式において土木学会の小林潔司会長から発表されました。



ACECC13学協会の代表の記念撮影

●プレナリーセッション



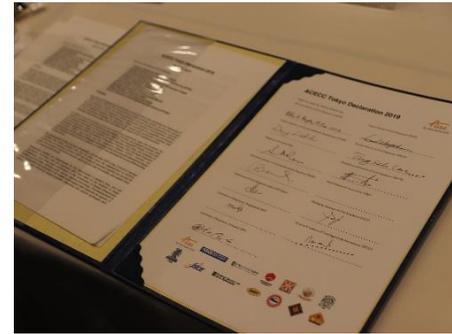
●コンカレントセッション



●ブース展示



●ACECC 東京宣言



トークサロン

- 土木学会では、一般の方も対象として、時々で社会で注目されている土木工学に関連する話題について、講師をお招きしてお話をいただき、参加者の方々との懇談・討議をしていただく「トークサロン」を定期的に開催しています。
- 2003年4月の第1回から2018年11月の特別編(通算第43回)まで、延べ1,935人の方に参加いただきました。
- 表は、2018年度のテーマ等の一覧です。

トークサロンのテーマ等

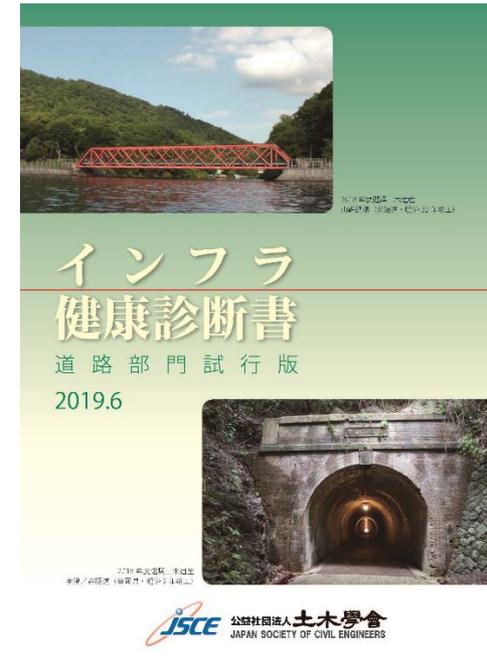
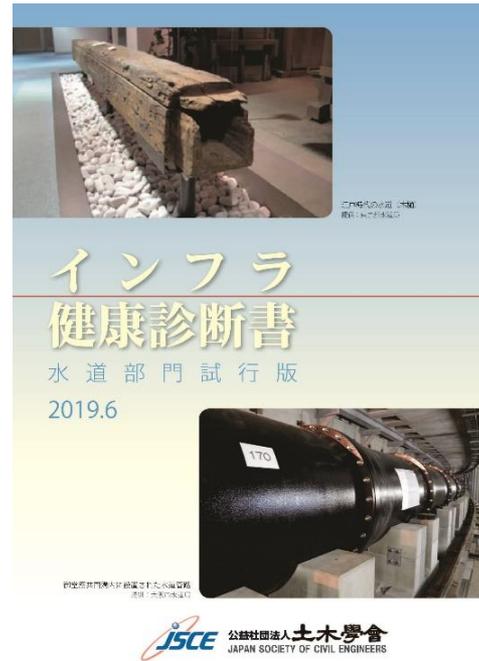
回数	開催日	テーマ	内容	収録動画視聴者数
特別編 (通算第43回)	2018/11/02	災害を乗り越えていく地域のつながり コーディネータ：清野 聡子	福岡県 東峰村、 北海道 鶴川町、 東京をインターネット で結んで議論	162名 (2019/03/31時点)



豪雨災害被災地(福岡県朝倉郡東峰村のCATVのスタジオ)⇨震災被災地(北海道苫小牧の森林組合)⇨東京の土木学会企画委員会幹事長を結んだ対話

社会インフラ健康診断

社会インフラ健康診断(試行版)の公表 (水道部門、道路部門)



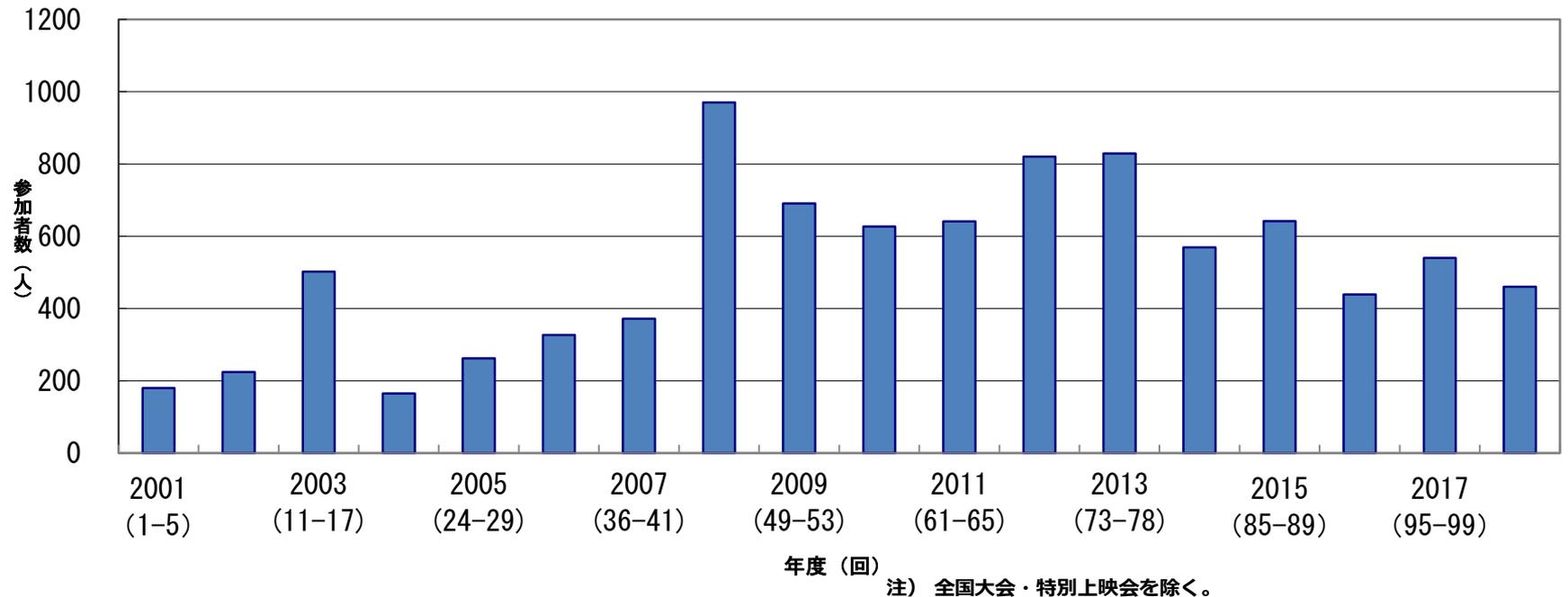
【健康診断書作成の経緯】

- 2016年 5月：健康診断書の第一弾として「社会インフラ健康診断書 道路部門(橋梁・トンネル・路面(舗装)) 試行版」を公表
- 2016年 10月：「社会インフラ健康診断書(道路部門試行版) 英文概要版」を公表
- 2017年 8月：河川部門(試行版)、下水道部門(試行版)、道路部門(橋梁・トンネル)(試行版)の健康診断書と、全体の概要版を公表
- 2018年 6月：港湾部門(試行版)、道路部門(橋梁・トンネル)(試行版)の健康診断書と、全体の概要版を公表
- 2019年6月：水道部門(試行版)、道路部門(橋梁・トンネル・路面(舗装))(試行版)の健康診断書と、全体の概要版を公表

イブニングシアター

- 土木学会では、「イブニングシアター」「市民公開特別上映会」「全国大会映画会」など、一般の市民を対象に、土木技術に関する無料の映画会を定期的を開催しています。
- このうち「イブニングシアター」は、2001年11月から2019年3月までの間に104回開催し、延べ9,260人の方にご参加いただきました。
- 2018年度は、5回開催し、460人の方が参加くださいました。

イブニングシアターの参加者数推移



災害調査団

- 土木学会では、国内外を問わず大災害が発生した際に、発災後ただちに災害対策本部を設置し調査団を派遣して専門的調査を行い、学術的、技術的見地からメカニズムの解明と防災上の提案を行っています。
- 東南アジアを中心とする海外へは、1999年から2018年の間に、38回、延べ396人の調査団を派遣しています。国内では、2018年度は大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震、台風21号沿岸災害に延べ144人の調査団を派遣しました。

災害調査団派遣実績（海外）

国際派遣	調査団派遣数(回)	延べ団員数(人/年)	派遣国・地域等
1999年	2	32	台湾(地震)、トルコ(地震)
2000年	1	7	メコン河(水害)
2001年	3	27	エルサルバドル(地震)、インド(地震)、ペルー(地震)
2002年	2	35	イラン(地震)、ヨーロッパ(水害)
2003年	2	15	トルコ(地震)、アルジェリア(地震)
2004年	1	11	イラン(地震)
2005年	4	67	スマトラ(地震)、アメリカ(水害)、パキスタン(地震)、インドネシア(地震)
2006年	2	21	ジャワ島(地震)、スマトラ(地震)
2007年	3	22	ペルー(地震)、スマトラ(地震)、バングラデシュ(水害)
2008年	3	11	インドネシア(地震)、中国(地震)、ミャンマー(水害)
2009年	4	47	イタリア(地震)、台湾(台風・水害)、インドネシア(地震)、フィリピン(水害)
2010年	2	24	チリ(地震)、クライストチャーチ(地震)
2011年	2	20	タイ(水害)、トルコ(地震)
2012年	1	2	アメリカ(ハリケーン)
2013年	1	10	フィリピン(台風・高潮)
2014年	0	0	
2015年	1	15	ネパール(地震)
2016年	0	0	
2017年	2	10	メキシコ(地震)、アメリカ領バージン諸島(ハリケーン)
2018年	2	14	台湾、インドネシア

災害調査団派遣実績（国内）

国内派遣	調査団派遣数(回)	延べ団員数(人/年)	災害名
1998年	1	6	福島・栃木・茨城水害
1999年	1	10	広島県土砂災害
2000年	4	22	有珠山噴火、神津島近海地震、東海豪雨災害、鳥取県西部地震
2001年	1	11	芸予地震
2002年	0	0	
2003年	5	102	三陸南沖地震、九州北部・中部豪雨災害、宮城県北部地震、平成15年8月台風10号豪雨災害・北海道胆振・日高地方災害、十勝沖地震
2004年	5	97	北陸豪雨災害、四国豪雨・高潮災害、平成16年9月台風21・22号災害、平成16年10月 台風23号災害、新潟県中越地震災害
2005年	1	21	福岡県西方沖地震
2006年	2	23	平成18年7月豪雨災害、平成18年11月北海道佐呂間町竜巻災害
2007年	2	33	能登半島地震、新潟県中越沖地震
2008年	2	13	岩手・宮城内陸地震、都賀川水難事故
2009年	2	16	防府土砂災害、兵庫県佐用町河川災害
2010年	2	23	中国地方豪雨災害、広島県庄原市土砂災害
2011年	3	37	新潟・福島豪雨災害、台風第12号土砂災害、上越地滑り災害
2012年	1	34	九州北部豪雨災害
2013年	2	29	伊豆大島豪雨災害(事前調査、本格調査)
2014年	1	44	広島豪雨災害
2015年	1	85	関東・東北豪雨災害(関東、東北)
2016年	14	131	熊本地震、北海道・東北豪雨災害
2017年	2	52	九州北部豪雨、秋田豪雨災害
2018年	7	144	大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震、台風21号沿岸災害

2011年～	67	述べ3,700	東日本大震災
--------	----	---------	--------

- 土木学会では、小中学校の総合学習および理科・社会などの教科教育において、出前講座等の学習支援活動を実施しています。
- 夏期講習会、土木と学校教育フォーラム、D&Iフォーラムを開催し、土木教育賞を贈呈しています。

学習支援

支援題目	時期	実施先	支援対象	授業内容
夏休み学習支援	2018/7/29	千葉県八千代市TRC 八千代中央図書館	八千代市内の 小学4年生以上	長さを測る演習を実施して、準天頂衛星や測量機器の紹介、レーザースキャナー計測実演を行いました。40名参加。
観光まちづくり	2018/12/20	福岡県うきは市立 吉井小学校	小学生	福岡県うきは市と連携した観光教育支援活動として福岡県うきは市立吉井小学校の在校生40名(全6班)を対象に「観光学習」、「フィールドワーク」等から調査・収集した情報を収集しました。これを基に「お勤め観光マップ」を作成し各班で発表する一連の活動の支援を行いました。
防災教育	2019/3/18	北海道更別村立 更別小学校	小学生	北海道更別村立更別小学校の3年生を対象に、ハザードマップを用いたグループ学習(防災教育)を実践しました。
都市基盤施設論	2018年度	福山市立大学	大学生	平成30年度は都市経営学部2年生等180名が履修しました。

シンポジウム・フォーラム等

名称	時期	場所	テーマ	参加者数
第52回夏期講習会	2018/8/21	関西大学 高槻 ミュージックキャンパス	これから想定される自然災害 ～土木技術者に突きつけられている課題	172名
第10回土木と学校教育フォーラム	2018/7/29	土木学会講堂、AB会議室	まちづくりを通して、子供は何を学ぶのか	84名
D & I フォーラム	2018/7/2	土木学会講堂	～多様性が生産性を高める～土木界の働き方改革～	124名

●夏休み学習支援



●夏休み学習支援



●D & I フォーラム



- 土木学会には、全国に8支部があり、土木への理解とご意見をいただく機会として、各種行事を開催しています。各支部の代表的な行事をご紹介します。

各支部の活動

支部	行事名	開催日	開催場所	概要	参加者数
北海道	親子で行く！ 土木の現場めぐり バスツアー	2018/07/31	千歳川江別太遊水地工事、 石狩湾新港発電所建設工事、 豊平川導水路新設工事	「土木」のことをより知っていただくため、「豊かな生活を支える土木」をテーマに、「親子で土木の現場めぐりバスツアー」を毎年実施しています。普段は見ることのできない工事現場を体感できる貴重な機会です。	44名
東北	現場見学会 (女性技術者交流 サロン)	2018/07/25 ～26	女川原子力発電所、 東北地方太平洋沖地震に伴 う災害復旧（気仙沼線 津谷川B新設） 中島地区海岸外災害復旧 工事（その2）	他機関所属の女性技術者と見学内容等について意見交換等を行いました。	36名
関東	親子見学会	2018/11/24	群馬県吾妻郡長野原町 八ッ場ダム本体建設工事	将来を担う子供たちに土木技術のすばらしさを紹介するために、土木の日記念行事として「親子見学会」を実施しました。	34名
中部	市民講座 出前講座	計23回	各地の 生涯学習センター、 高等学校 他	高校生を対象とした出前講座や一般向けの出前講座や市民講座を、中部各県で計23回、定期的に行いました。	のべ2,500名 以上

●北海道支部



現場見学会・親子見学会

●東北支部



現場見学会・女性技術者
交流サロン

●関東支部



現場見学会・親子見学会

●中部支部



市民講座・出前講座

- 土木学会には、全国に8支部があり、土木への理解とご意見をいただく機会として、各種行事を開催しています。各支部の代表的な行事をご紹介します。

各支部の活動

支部	行事名	開催日	開催場所	概要	参加者数
関西	FCCどぼくカフェ	計5回	神戸大学 六甲台第2キャンパス他	各府県の土木構造物にちなんだ会場において談話会等を計5回開催し、土木構造物の魅力についてPRしました。	のべ70,000名以上
中国	土木学会インフラツーリズム	2018/11/23	(島根県浜田市) 新旧今福線の橋梁・トンネル群	安全で豊かな生活を支えるインフラについて考えながら公共施設などを見学するインフラツーリズムです。ぶらぶら歩いて、地域の遺産を専門家が解説しながら巡るミニツアーです。	24名
四国	沖洲海浜 ナイトウォッチング	2018/09/15	徳島市 マリンピア 沖洲人工海浜	夜の浜辺でライトを照らして生き物を観察し、夜の生き物についてクイズで楽しく学びました。	35名
西部	日本土木学会-大韓土木学会-台湾公共工程学会 ジョイントカンファレンス2018	2018/08/27 ~28	九州大学 西新プラザ	土木学会 (JSCE)、大韓土木学会 (KSCE)、台湾公共工程学会との学会員の技術的・科学的・専門的知識の交流を促進し広げるために開催されるものです。学術的交流のみならず、心と心の交流を通して三国間の人材育成と地域貢献も視野に入れて行われました。	39名

● 関西支部



FCCどぼくカフェ

● 中国支部



現場見学会・親子見学会

● 四国支部



ナイトウォッチング

● 西部支部



ジョイントカンファレンス

委員会活動：出版

- ・土木学会では、学会内に設置された委員会活動の成果を刊行物として出版しています。示方書や教材など、土木を構成するさまざまな分野の書籍を多数発行しています。
- ・2018年度は、コンクリート標準示方書2編（維持管理編、規準編）を5年ぶりに改訂するなど、これらを含め年度末までに21点を発行しました。
- ・2018年度の一年間において、全体で490点の書籍等を販売し、売上部数は55,761部、売上金額は227,339,733円でした。

主な刊行物（示方書、教材、指針・マニュアル、調査報告、専門書 など）



委員会活動：調査研究 (1/4)

- 土木学会には、調査や研究を目的とした調査研究部門があり、29の委員会が設置されています。
- 各委員会は、研究発表会、技術講習会などの行事を開催しています。
2018年度は185件の行事が開催され、2,743件の研究発表があり、22,159名が参加しました。
- また、8分野、19分冊の「土木学会論文集」と“Journal of JSCE”(土木学会英文論文集)を発行しています。2018年度は、和文211編、英文13編の論文を掲載しました。

分野と委員会の数

分野	委員会の数
I 構造	6
II 水理	3
III 地盤	3
IV 計画	3
V コンクリート	2
VI 建設技術 マネジメント	7
VII 環境・ エネルギー	5
合計	29

主な行事

行事名	講演数	参加者数
土木計画学研究発表会（春大会）	485	1,153
土木計画学研究発表会（秋大会）	350	828
水工学講演会	258	584
海岸工学講演会	248	653
海洋開発シンポジウム	174	394
環境工学研究フォーラム	125	222
地震工学研究発表会	111	191
景観・デザイン研究発表会	99	315
構造工学シンポジウム	85	224
環境システム研究論文発表会	79	123

注) 講演数の上位10件を抽出した。

論文掲載数

分冊	論文集	英文 論文集
A1	39	2
A2	9	2
B1	8	2
B2	3	0
B3	2	0
C	38	2
D1	8	0
D2	5	0
D3	30	0
E1	5	2
E2	22	0
F1	6	0
F2	1	0
F3	7	1
F4	2	0
F5	2	0
F6	2	0
G	18	2
H	4	-
合計	211	13

- 土木学会の調査研究部門でも、市民のみなさんを対象とした活動を行っています。一部の例を紹介します。

各委員会の活動

委員会	行事名	開催日	開催場所	概要	参加者数
構造工学	小学生を対象とした「工作・実験フェア2018」体験型実験模型の貸し出し	2018/08/11	大阪工業大学	小学生を対象とした本学のイベント「工作・実験フェア2018」の一環で、参加者に橋の仕組みとその力強さを体験してもらいました。参加者に小学校低学年が多かったこともあり、積み木感覚で体験できるアーチ橋の模型は大変好評でした。まず、支保工を抜いても崩れないことに驚き、さらに、自分が座っても壊れないことに歓声が上がりました（次世代教育小委員会）。	60名
環境システム	自然災害の環境影響と対策～災害時の環境影響を通して人と環境との共生の問題を考える～	2019/02/25	土木学会講堂	毎年行っている（一社）日本環境アセスメント協会との共催シンポジウムです。本年度は近年増加している自然災害による環境影響について環境保全の視点のほか防災・減災の視点など複層的な視点から考えることをテーマに4名の講師の先生による講演と総合討論を行いました。廃棄物処理や下水処理での副次的環境影響の回避や東日本大震災避難地区の自然環境管理、九州北部豪雨での被害と自然環境保全を考慮した復興のあり方等の幅広い議論ができました（ビジネス展開小委員会）。	一般78名
海洋開発	第43回海洋開発シンポジウム 前日シンポジウム「海に向かった観光金沢の次なる飛躍」	2018/07/04	金沢市	マーケティング企業、クルーズ企業などの異分野の方々を招き、クルーズ船がもたらす港の賑わいの創生およびその経済波及効果に関するシンポジウム「海に向かった観光金沢の次なる飛躍」を開催しました（海洋開発委員会）。	一般49名
エネルギー	まちなかどぼくウォークラリー～エネルギーと土木にちなんだ施設を見てまわって体験するツアー～	2018/08/03	がすてなーにガスの科学館、新豊洲変電所	一般市民を対象に、ガスの科学館、新豊洲変電所などの「エネルギー」、「土木」にかかわる施設を見学するウォークラリーを実施しました。質疑応答の時間には子どもたちから多くの質問が寄せられるなど、見てふれてエネルギーと土木を考える機会を提供することができました（新技術・エネルギー小委員会）。	一般24名

● 構造工学委員会



小学生対象「工作・実験フェア2018」

● 環境システム委員会



自然災害の環境影響と対策シンポジウム

● 海洋開発委員会



海洋開発シンポジウム前日シンポジウム

● エネルギー委員会



まちなかどぼくウォークラリー

- 土木学会の調査研究部門でも、市民のみなさんを対象とした活動を行っています。一部の例を紹介します。

各委員会の活動

委員会	行事名	開催日	開催場所	概要	参加者数
建設技術研究	国内交流会	2018/03/12	外環道 本線トンネル(南行)大泉南工事 清水JV	今年は、首都圏の大学に在籍する外国人留学生を対象に、東京外環プロジェクトのうち、清水JVで施工中の本線トンネル（南行）大泉南工事の現場見学会を行い、日本の最新のシールド技術の一端に触れてもらいました（国際技術交流小委員会）。	留学生 31名
建設用ロボット	最新建設用ロボット技術の紹介2018	2018/07/21	神奈川県横須賀市 (国立研究開発法人) 港湾空港技術研究所	港湾空港技術研究所の一般公開に合わせて実施したもので、今回で6回目の開催となり、すっかりおなじみのイベントとなりました。情報化施工のシミュレータ体験、遠隔操縦バックホウを使った無人化施工操作体験、グラブ浚渫船模型の操作体験、現場で活躍する建設用ロボットのビデオ紹介などを行い、たくさんの市民の方に建設用ロボット技術を身近に感じてもらいました（建設用ロボット委員会）。	一般 336名
地盤工学	東京都防災展2018	2018/10/14	東京都	屋外に設置された一区画のブースにて、斜面災害に対する市民向け啓もう活動にあたりました。当小委員会で出版した「実験で学ぶ土砂災害」を活用し、土砂崩れやその対策のメカニズムを模型にて解説しました。土木施設が備える土砂災害を防ぐ機能を、来場者に視覚的に理解してもらいました（斜面工学研究小委員会）。	ブース来場者 249名

● 建設技術研究委員会



国内交流会

● 建設用ロボット委員会



最新建設用ロボット技術の紹介2018

● 地盤工学委員会



東京都防災展2018

- 土木学会の調査研究部門でも、市民のみなさんを対象とした活動を行っています。一部の例を紹介します。

各委員会の活動

委員会	行事名	開催日	開催場所	概要	参加者数
建設マネジメント	公共デザイン研究セミナー ～これからの知的生産と公共調達のあり方を考える～ in 福岡	2019/01/24	福岡市 JR博多シティ	街路、公園、駅前広場、水辺、河川空間、ダム施設、橋梁、海岸・港、公共交通施設、ストリートファニチャー、照明デザイン、リノベーションなどの社会基盤を対象として、質の高い公共空間を創出するためのデザインコンペの実施ノウハウを豊富な事例とともに解説した『土木設計競技ガイドライン・同解説+資料集』の出版を記念して、国土交通省九州地方整備局や有識者等からの講演や質疑応答を行いました（公共デザインへの競争性導入に関する実施ガイドライン研究小委員会）。	一般 40名
コンサルタント	平成30年度「女子中高校生夏の学校2018～科学・技術・人との出会い～」 （主催：独立行政法人国立女性教育会館） のポスター展示に参加	2018/08/10	埼玉県 国立女性教育会館	ポスター展示において、土木は、道路、鉄道、上下水道、電気など一人一人の日常生活に欠かせない様々な基盤整備を担っていること、また、地震、津波、洪水、斜面崩落などの災害から、命と資産を守るための基盤整備の担い手でもあることを、私たちの暮らしに身近な土木を紹介することにより、参加した理系を目指す女子中高校生の方々に土木への理解を深めてもらうとともに、計画～維持管理までの土木の仕事についても理解してもらいました。また、簡単な土木技術（橋の原理など）を体験してもらい、土木に対する興味をもってもらいました（市民交流研究小委員会、協力：土木技術者女性の会）。	一般（女子中高校生） 24名
地下空間研究	夏休み親子見学会 （大阪会場）	2018/08/04	大阪市 阪神電気鉄道梅田駅大規模改良工事	阪神電気鉄道梅田駅大規模改良工事現場を見学するとともに、地下空間クイズ及び発表会を実施し、地下空間博士認定証を授与しました（地下空間研究委員会）。	保護者20名 小学生20名 合計40名

●建設マネジメント委員会



公共デザイン研究セミナー

●コンサルタント委員会



女子中高校生夏の学校2018～科学・技術・人との出会い～

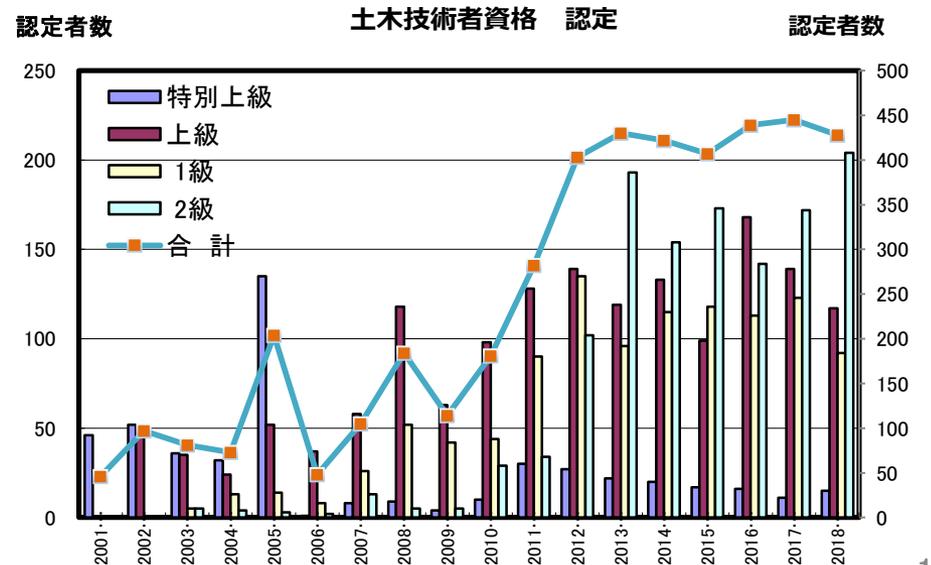
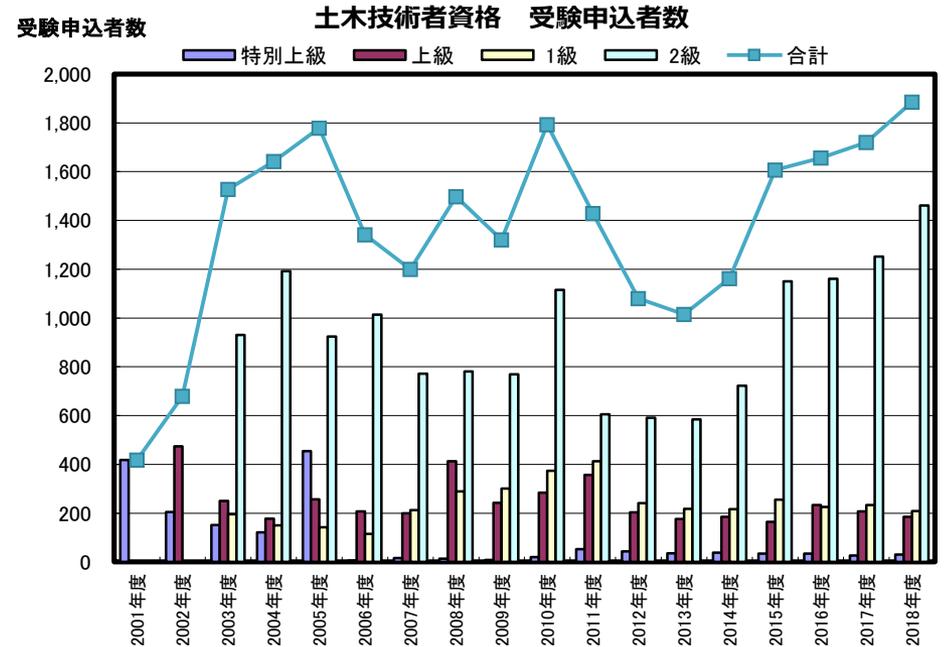
●地下空間研究委員会



夏休み親子見学会

土木技術者資格

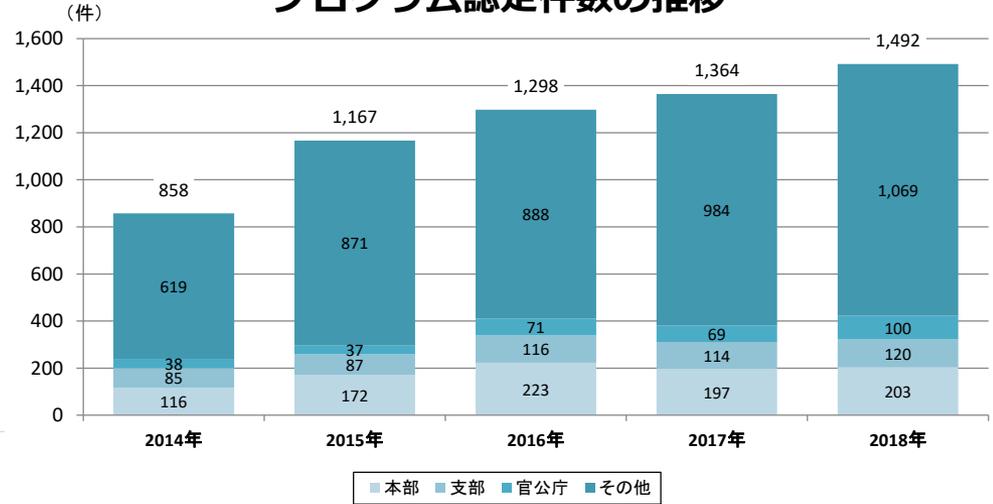
- 特別上級、上級、1級の受験申込者数は、2012年度から大きな変動なく推移しています。
- 土木技術検定試験(兼2級土木技術者資格審査)の受験申込者数は、大学生の団体受験と社会人受験者が増加していることを要因として、2015年度以降、毎年増加しており、2018年度は1,461名にのぼります。
- 土木技術者資格認定者は毎年300～400名が新たに加わり、2019年3月時点で3,501名の方が、土木学会認定土木技術者として社会で活躍されています。
- 国土交通省「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格登録簿」では、47の施設分野・業務で登録されています。



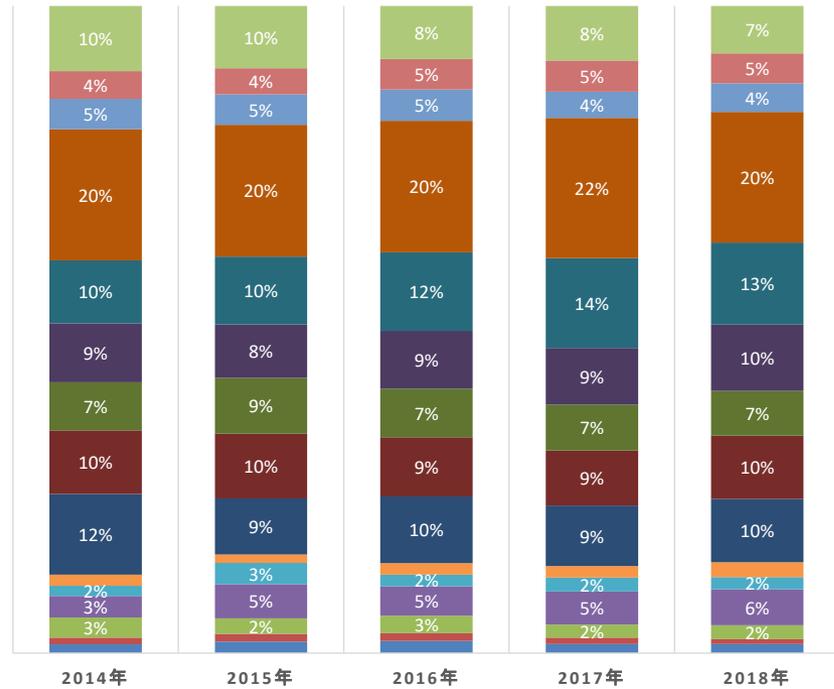
土木学会認定CPDプログラム

- 土木学会認定CPDプログラム数は、年々増加し、2018年度は最多の約1,500件となりました。
- 教育分野ではL分野（建設事業計画、建設マネジメント等）の割合が高く、倫理・一般科学等の基礎共通分野の割合は低くなっています。
- 開催地域別では、関東、関西、九州・沖縄地区において件数が多い傾向があります。

プログラム認定件数の推移

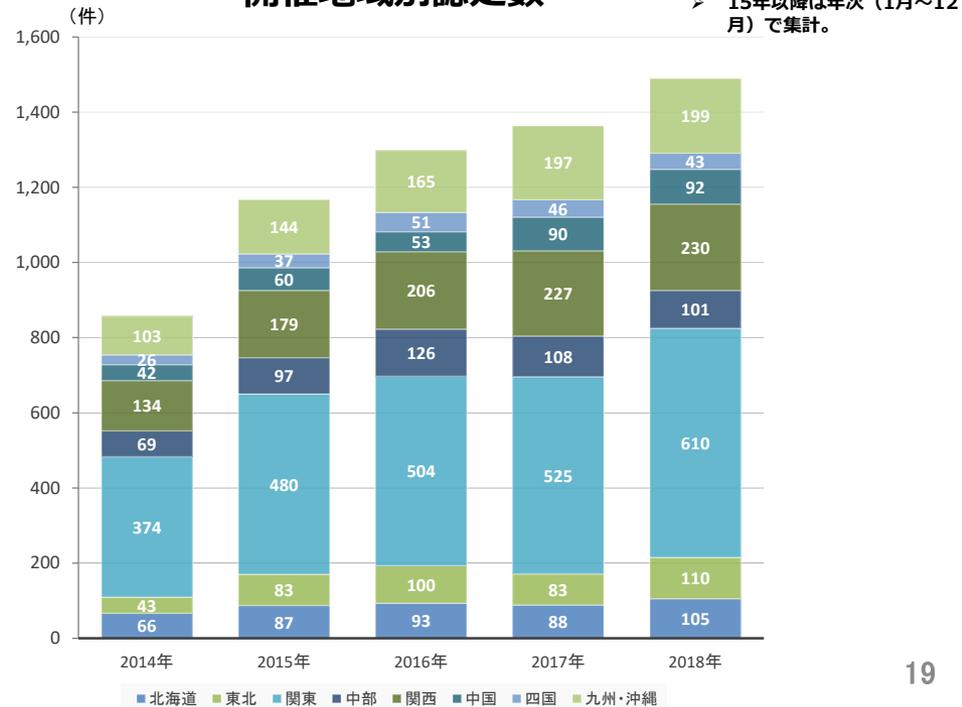


教育分野別認定件数構成比



教育分野A～Oの詳細な内容については、**継続教育（CPD）ガイドブック**を参照してください。
http://committees.jsce.or.jp/opcet/01_guidebook

開催地域別認定数





- 土木学会提供JMOOC講座を、2018年度に2講座製作(2019年度に開講)

土木学会提供
JMOOC講座第一弾

土木情報学入門

2019年5月7日 開講
受講申し込み受付中

受講無料

土木情報学とは、社会インフラのライフサイクルの中での情報の取得・生成・蓄積・流通・活用に関する理論・技術を探求する学問です。このたび土木学会では、i-Constructionの基礎ともなる「土木情報学」を学べる講座を、日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）の**オンライン講座**として開講します。

この講座は、無料で、どなたでも受講可能です。土木技術者の方はもちろん土木技術者を目指す学生の方や土木分野以外の方も、ご自身の学習にご活用ください。

講座内容

第1週：土木情報学とは／計測・通信・制御
土木情報学とは/3次元計測/GNSS/通信と制御

第2週：ビジュアル情報処理
画像のデジタル化/画像処理の基礎/画像間演算と動画画像処理/CG/画像処理の応用技術（VR/AR）

第3週：ソフトウェアコンピューティング
フジイ理論/遺伝的アルゴリズム/ニューラルネットワーク/ディープラーニング

第4週：土木情報学の応用
一建設現場におけるCIM活用
CIMとは？/CIMの活用（設計～施工計画）/
CIMの活用（施工その1）/CIMの活用（施工その2）

講師陣（土木学会 土木情報学委員会）

蒔苗 耕司（宮城大学）
石田 仁（五洋建設（株））
和泉 繁（大日本コンサルタント（株））
河村 圭（山口大学）
間野 耕司（株）バスコ）
千葉 洋一郎（パシフィックコンサルタンツグループ（株））
岡本 修（茨城工業高等専門学校）

講義イメージ

受講申し込みはJMOOCサイトから <https://www.jmooc.jp/>
講座内容の詳細もこちら確認いただけます。
※JMOOC/OpenLearningへの利用者登録が必要です。

参考書籍
「土木情報学－基礎編－」
ISBN978-4-8106-0937-0 丸善出版（株）
※裏面の申込書で土木学会員以外の方でも特別価格で購入可能です。

本講座は、土木学会CPD制度の認定e-ラーニングです。
(8.0単位、登録には修了証が必要です。)
<http://committees.jsce.or.jp/opcet/cpd>

本講座に関する問合せ先：公益社団法人土木学会 技術推進機構 中島 TEL 03-3355-3502/E-Mail opcet-cpd@jsce.or.jp
本講座は、一般財団法人 日本建設情報総合センター（JACIC）の助成の一部を活用して製作しています。

土木学会提供
JMOOC講座第二弾

比較自然災害学

(水災害編)

2019年6月17日 開講
受講申し込み受付中

受講無料

土木という学問は、災害大国であるわが国において、災害の被害やそこから得られた貴重な経験を踏まえ、活力ある安全な国土を目指しインフラ整備に取り組んできました。しかし近年、従来の常識を覆す災害が多発しています。そこで今般、土木学会では、中央大学理工学部都市環境学科 山田 正教授、有川 太郎教授の企画・監修のもと、水災害の歴史や発生メカニズム・特徴、災害への備えについて学ぶことのできる講座を、日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）のオンライン講座として製作いたしました。この講座は、無料で、どなたでも受講可能です。本講座を通じ、土木技術者の方はもちろん、多くの方に水災害に対する防災について学んでいただければと思います。

講座内容

第1週：津波編
安全と安心／津波災害の歴史とメカニズム
地域の取り組み／今後の対応

第2週：高潮編
高潮被害と記憶／
高潮のメカニズムと被害の特徴／
地域の取り組み／今後の対応

第3週：豪雨編
豪雨災害の歴史／豪雨災害のメカニズム／
豪雨災害への取り組み～利根川～／
河川の現状と今後の学術的展望

第4週：避難の意識とまちづくり
避難の意識／
川からみたまちづくりと海からみたまちづくり／
自然災害への適応に向けて

企画・監修
山田 正（中央大学理工学部都市環境学科 教授）
有川 太郎（中央大学理工学部都市環境学科 教授）

出演 ※出演順；肩書きは撮影日時時点
磯部 雅彦（高知工科大学 学長）／ 山崎 正明（中土佐町 危機管理室長）
柴田 隆（高潮被災者 語り部）／ 東京都建設局河川部
岡安 草夫（東京海洋大学 教授）／
三橋 さゆり（国土交通省 利根川上流河川事務所長）
清水 義彦（群馬大学大学院 教授）／ 佐藤 慎司（東京大学大学院 教授）

講義イメージ

受講申し込みはJMOOCサイトから <https://www.jmooc.jp/>
講座内容の詳細もこちら確認いただけます。
※JMOOC/Fisdомへの利用者登録が必要です。

Fisdом

本講座は、土木学会CPD制度の認定e-ラーニングです。
(8.0単位、登録には修了証が必要です。)
<http://committees.jsce.or.jp/opcet/cpd>

本講座に関する問合せ先：公益社団法人土木学会 技術推進機構 中島 TEL 03-3355-3502/E-Mail opcet-cpd@jsce.or.jp